

第4回駿河海岸保全検討委員会 議事要旨

日 時 平成28年12月8日(木) 16:30～17:30

場 所 レイアアップ御幸町ビル5階 会議室5-D

出席者	東京大学大学院	佐藤教授
	名古屋大学大学院	水谷教授
	静岡大学	原田准教授
	国土技術政策総合研究所	加藤海岸研究室長
	静岡県交通基盤部	長縄河川砂防局長
	中部地方整備局河川部	松浦河川調査官
	中部地方整備局静岡河川事務所	犬飼事務所長

<議事>

○L1以上盛土を含めた最終的な形状について

- ・「駿河海岸における粘り強い海岸堤防の整備の考え方」について、「越流する形状の盛土」では基本構造（天端保護工＋裏法被覆工＋裏法尻部保護工）として整備、「越流しない形状の盛土」では基本構造のうち天端保護工のみの整備とするが背後盛土が天端保護工の施工に引き続き施工され形状が一定の安全度を持っていることが条件、として事業を進めることが確認された。
- ・事務局からの資料・1説明後、佐藤委員長からの紹介により、東京大学大学院生から「粒子法による盛土洗掘シミュレーション」による検証内容について説明され、本委員会における実験やシミュレーション以外の方法でも検証が重要であると紹介いただいた。
- ・不等沈下実験における沈下部の設定の考え方について、資料に追記する。
- ・不等沈下実験において、堤防高が全体的に低い場合より、切り欠き部がある場合には、そこに流れが集中し被害も集中する可能性がある旨を、資料に追記する。
- ・今回の越流する形状での実験は、せん断力による洗掘、侵食に着目して検証しているが、越流による堤防の被災メカニズムはまだ解明しきれていない。このため、今回の結果が一人歩きしないように、堤防及び盛土については今回の実験以外の要素も含む不確実性が内在しているということをきちんと残されたい。
- ・被害軽減額について、今後、浸水図なども整理し、地域住民にわかりやすい説明とされたい。
- ・「とりまとめ（案）」に関し、
 - 「駿河海岸における粘り強い海岸堤防の整備の考え方」については、本検討委員会の結論をわかりやすく整理されたい。
 - 「盛土形状と大きく異なり」については、具体的な内容に修正する。
 - 「とりまとめ」のページだけが一人歩きしても「模型実験」の実験条件や実施目的などがわかるように、「とりまとめ」中に追記されたい。

- これら意見を踏まえ修正した「とりまとめ」については、委員各位に確認し、ホームページに掲載する。
- ・ 今回の模型実験やシミュレーション結果のデータについてとりまとめ、今後、駿河海岸以外の検討等へ活用できるよう、国土技術政策総合研究所とも相談されたい。

○今後の予定

- ・ 次回の開催は、年度末の 2～3 月を予定する。
- ・ 来年度以降も 1～2 回/年程度の開催を予定する。